

## 第19期（通期35期）活動報告

創立35周年を迎えた19期は当会の理念としての生涯登山を進めるため、多様な山行の実施、事故防止のために安全を重視した活動、教育システムの充実、組織活性化に努めました。

新たな山行管理システムの開発を進め、来期期初から運用が開始できます。新設した組織部は順調に活動を開始しております。また活発な山行を実現するため、リーダーへの山行補助費、下見山行交通費補助費を支給できるよう会の規約・規則等の改定を行いました。

35周年記念行事を実施し、会員の親睦を深めるとともに新たな前進を祈念しました。

### I 会務に関する活動

1 会員数の状況 2017年度は前年に引き続き入会者、退会者がほぼ同数で差し引き2名の増加となりました。平均年齢は微増傾向が続いています。

#### (1) 会員数の推移

年度	会員数	男	女	前年比	入会者	退会者	平均年齢
2016年3月末	748人	354	394	-12	79	91	68.6歳
2017年3月末	749人	352	397	1	57	56	68.9歳
2018年3月末	751人	341	410	2	77	75	69.1歳

#### (2) 会員の年齢別構成推移

年度	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	計
2016年3月末	1	3	14	89	300	297	44	0	748人
	0.1%	0.4%	1.9%	11.9%	40.1%	39.7%	5.9%		100%
2017年3月末	1	2	17	90	283	305	51	0	749人
	0.1%	0.3%	2.3%	12.0%	37.8%	40.7%	6.8%		100%
2018年3月末	0	0	14	91	271	321	54	0	751人
	0.0%	0.0%	1.9%	12.1%	36.1%	42.7%	7.2%		100%

#### (3) 入会者の年齢推移

年度	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	計
2016年3月末	0	2	10	23	32	12	0	0	79人
		2.5%	12.7%	29.1%	40.5%	15.2%			100%
2017年3月末	0	1	9	12	30	5	0	0	57人
		1.7%	15.8%	21.1%	52.6%	8.8%			100%
2018年3月末	0	0	7	28	35	7	0	0	77人
			9.1%	36.4%	45.4%	9.1%			100%

#### (4) 退会者の年齢推移

年度	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	計
2016年3月末	0	1	6	12	30	31	11	0	91人
		1.1%	6.6%	13.2%	33.0%	34.0%	12.1%		100%
2017年3月末	0	1	1	5	22	27		0	56人
		1.8%	1.8%	8.9%	39.3%	48.2%	%		100%
2018年3月末	1	2	5	10	22	18	14	3	75人
	1.3%	2.7%	6.7%	13.3%	29.3%	24.0%	18.7%	4.0%	100%

#### 2 新たな山行管理システムの構築

前期から Web 化を前提とした新たな山行管理システムの基本設計を進めてきましたが、仕様書・見積書の作成、業者説明、見積依頼、第 19 期総会での説明等を経て 6 月から本格的に開発に着手しました。開発は順調に進み 11 月以降ユーザーテスト、会員登録を経て、テスト運用を行い 2018 年 4 月から本格稼働する運びとなりました。

#### 3 登山愛好者の入会勧誘活動

登山愛好者を仲間に迎えよう！を合言葉に、山行時などに会員による会活動の紹介や勧誘に活用するためのパンフレットを増刷し、幅広く活用しました。またホームページでの会活動の紹介、シニアライフ講演会参加、「みろく登山スクール」の開催などをおこない入会勧誘に努めました。

#### 4 対外活動の継続

- (1) 自然保護に関する活動では、登山道補修整備用資材の運搬、丹沢周辺の植樹地の調査・管理及び植樹、大倉尾根植生回復、地方自治体や関係団体との連携協力などをおこないました。
- (2) みろく登山スクールを開催。登山ハイキングに関心のある人達を迎えて、登山技術の講座、山の歩き方・コンパスの使い方などの実技山行をおこない、登山の事故防止・登山技術の習得・山の仲間作りに努めました。昨年に続き開催案内は全国紙に掲載され、開催の広報と共にみろく山の会の PR にも寄与しました。
- (3) 川崎市・かわさき創造プロジェクト主催の「シニアライフ講演会」(11月26日)に参加し、画像で会活動を紹介、パネル展示、パンフレット配布を行い、中高齢者にとって楽しい充実した登山・ハイキング活動を紹介しました。
- (4) 三浦アルプス地域に関わる環境保全を目的とした「二子山山系自然保護協議会」の賛助会員として、引き続き地域内の巡視活動、登山道整備等に協力しました。
- (5) 新日本スポーツ連盟主催新春多摩川マラソン大会第 45 回(1月14日)で 11 人が走者に給水と甘酒提供などのサポートを行い、併せて会のポスターの掲示、情報誌やパンフレットの配布による広報活動を行いました。
- (6) 兵庫県労山主催の六甲全山縦走大会に 6 年連続で参加(19名)し、「西宮明昭山の会」と交流しました(3月11日)。また、5 月には「西宮明昭山の会」の会員 10 名 当会会員 22 名が参加し、巢雲山・天城縦走での交流山行を前期に引き続き 1 泊で実施しました。

(7) 東北地方の東日本大震災被災地へ支援山行を 15 件実施し、多数の会員が現地を訪れ、宿泊や特産物を購入するなど引続き支援を継続しました。

## 5 健全な財政運営への努力

(1) 第 15 期以降続いてきた収支差額の増加傾向を改善するため、全会員を対象にアンケート調査を実施し検討を進めてきましたが、山行参加費の継続、リーダーへの山行補助費・下見山行交通費補助金の支給を次期から行うこととし、関連規則等の改定を行いました。

(2) 各種経費の削減に引き続き努力しました。

## II 山行に関する活動

### 1 会員の多様な登山要求を実現するための活動

#### (1) 山行の月別回数および参加者数（非会員を除く）

年間計画回数は 755 回（月平均 62.9 回）と前年度 733 回（同 61.1 回）を上回りましたが、天候不順の影響等から実施回数は 608 回（同 50.7 回）と前年度 628 回（同 52.3 回）を下回りました。参加者数は 9,118 人と 4 年連続 9,000 人を超えましたが、前年度（9,277 人）比では、実施回数の減少等から 159 人の減少となりました。1 回当たり参加人数は 15.0 人とほぼ前年度（同 14.8 人）並みでした。

#### (2) 山行の種別回数および参加者数

年度	種別	一般山行のランク別					月例	鷹取三点支持	新入会員登山教室	スキー	計
		S	A	B	C	D					
16	回数	87	152	183	51	88	33	9	10	15	628
	参加者	1,550	2,636	2,759	535	751	672	124	86	164	9,277
17	回数	69	174	185	41	70	34	7	11	17	608
	参加者	1,226	2,862	2,827	392	785	661	77	107	181	9,118
前年差	回数	-18	22	2	-10	-18	1	-2	1	2	-20
	参加者	-324	226	68	-143	34	-11	-47	21	17	-159

ランク別回数、参加者数とも A B ランクが増加、C ランクが減少する傾向が続いています。この結果、全山行に占める割合で見ると、回数は、A B ランク計で 59.0%（前年度 53.3%）、S を含めると 70.3%（同 67.2%）となっています。一方、前年度も減少した C ランクは 6.7%（同 8.1%）となっています。参加者数は、S A B 計で 75.8%（同 75.0%）、C は 4.3%（同 5.8%）となっています。

1 山行の平均参加者数は S が 17.8 人、A が 16.4 人、B が 16.3 人、C と D は 9～11 で前年度とほぼ同程度となっています。

月例は 1 回当たりの人数（19.4 人）で見ると前年度（20.4 人）と大きな変化はありませんが、三点支持は 1 回当たりの人数（11.0 人）が前年度（13.8 人）から減少気味です。三点支持は危険場所を安全通過するための基本で、全ての会員が習熟することが望まれます。

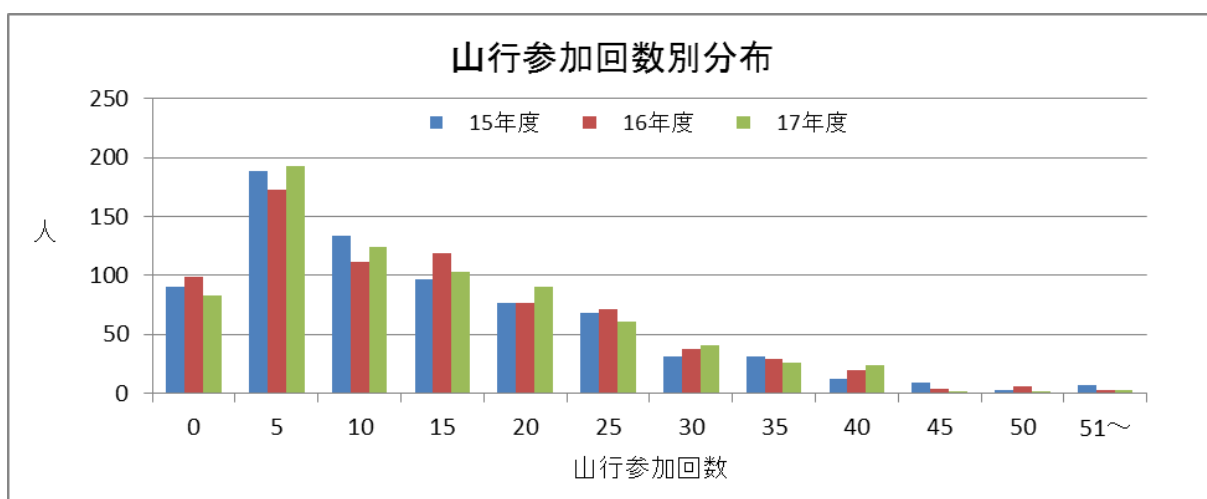
一般山行に含まれる特定の山行

年度	種別	会行事		学習		その他	計
		みろく祭 集中登山	清掃・登山 道整備	会承認の 学習山行	地図読み	海外山行	
16	回数	15	22	20	6	1	64
	参加者	292	335	208	90	11	936
17	回数	14	12	20	5	2	53
	参加者	193	147	299	72	18	729
前年差	回数	-1	-10	0	-1	1	-11
	参加者	-99	-188	91	-18	7	-207

創立 35 周年記念集中登山が富士五湖周辺で開催され、193 名の会員の参加がありました。天候の影響もあり参加者は前回の 30 周年集中登山と比べて 40 名減でした。清掃・登山道整備は 2017 年度開催予定の清掃登山を 2018 年に移したため、回数及び参加人数は前期と比べて数値上半減しています。沢教室、幕岩教室、MRT などの学習山行は、回数は同じだが参加者数は 44% 増となりました。地図読みはほぼ前年同様に実施されました。海外山行は「キリマンジャロ」、「マチュピチュ」を行い、それぞれ 7 名、11 名の参加がありました。

### (3) 山行参加回数別人数分布

回数	山行参加回数													計
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	51~		
15	90	189	134	97	77	68	31	31	12	9	3	7	748	
16	99	173	111	119	77	71	37	29	20	4	6	3	749	
17	83	193	124	103	90	61	41	26	24	1	2	3	751	



(注) 参加回数 5回は1~5回、10回は6~10回の意味で以下同様。

17年度の山行実施回数608回、延参加者は9,118人で1人年平均12回の参加となります。1~5回の参加者は193人と最も多く、1~15回で420人と過半数を超えています。

31回以上の参加者は56人と前年度比6人減となっていますが、参加回数0回の会員は83人と同16人の大幅減少となっています。

### (4) 月例山行の回数および参加者数

① 月別参加

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一回平均
16	122	82	79	8	0	47	40	56	51	52	51	84	672	51.7
17	115	93	67	10	0	60	19	69	40	64	34	90	661	50.8
前年差	-7	11	-12	2	0	13	-21	13	-11	12	-17	6	-11	-0.9

17年度7月BCD塔ノ岳山行は酷暑中止し、Sランクのみ実施しました。10月は雨天のため、月例Sランクは中止、BCD塔ノ岳山行も参加者が少なく、前年に比べ参加者数が減少しました。

② ランク別参加者数

		S	A	B	C・D	計
16	参加者	51	131	234	256	672
	一回平均	17.0	32.7	19.5	19.7	51.7
17	参加者	40	136	228	257	661
	一回平均	10.0	22.7	17.5	19.8	50.8
前年差	参加者	-11	5	-6	1	-11
	一回平均	-7.0	-10.0	-2.0	0.1	-0.9

SABランクで一回平均参加者数が減少しています。月例SAは制度が変更になって2年目ですが、コースが同じ事も減少要因の一つと考えられます。

③ 参加者数の年間推移

年度	09	10	11	12	13	14	15	16	17
参加者	558	524	446	463	475	575	528	672	661
回数	12	12	10	11	11	12	13	13	13
一回平均	46.5	43.7	44.6	42.1	43.2	47.9	40.6	51.7	50.8

今後も、体力レベルの確認、登山知識の習得、トレーニングの場、リーダーの研修の場として各ランクの参加者が増加していくことが望まれます。

(5) 休日・平日・バス山行の回数および参加者数

年度	区分	土・休日	平日	合計	内バス山行
	16	回数	371	257	628
参加者		5726	3551	9277	895
17	回数	356	252	608	42
	参加者	5498	3620	9118	892
前年差	回数	-15	-5	-20	-1
	参加者	-228	69	-159	-3

土・休日の山行回数、参加者ともわずかに減少(4%)していますが、平日は前年度と変わりません。

(6) 山城別山行計画および実施回数

山城	16		17		山城	16		17	
	計画	実施	計画	実施		計画	実施	計画	実施
奥多摩	25	23	41	33	北アルプス・後立山	31	25	34	20
奥武蔵	15	11	15	14	北関東・上州・妙義	22	22	15	11
奥秩父	12	11	11	7	筑波・房総・常磐	27	24	22	19
丹沢	193	177	193	156	日光・尾瀬・南会津	17	13	16	11
富士山・その周辺	17	14	29	27	谷川岳・佐渡	23	12	16	6
中央沿線(1)大月迄・道志	49	34	43	36	浅間・志賀・北信	15	12	18	16
中央沿線(2)大菩薩	13	11	20	17	東北	17	13	15	15
八ヶ岳・その周辺	23	18	25	22	北海道	2	2	2	2
湘南・京浜・三浦	156	146	163	131	近畿・尾張・北陸	4	4	4	4
箱根	37	28	38	31	中国・四国	2	2	2	2
伊豆	14	11	16	16	九州・屋久島	0	0	0	0
駿河(富士山の南側周辺)	2	2	1	1	海外	1	1	2	2
南アルプス(身延線西)	12	8	11	7					
中央アルプス	4	4	3	2	計	733	628	755	608

「丹沢」と「湘南・京浜・三浦」が前年度に引き続き計画数、実施数とも最も多く、この2山城を合わせると計画・実施とも全体の47%と半数近くを占めています。丹沢山城、三浦アルプス、鎌倉は身近な日帰り山行域として定着していることがうかがえます。そのほかの山城では、ほぼ昨年並みとなっています。

#### (7) 世話役会の活動

種別	16年度		17年度		前年差	
	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者
すこやか	21	423	35	757	14	334
雪山	8	68	9	111	1	43
やぶ	11	140	10	97	-1	-43
岩沢	58	468	45	426	-13	-42
スキー	15	155	17	181	2	26
山と温泉	28	376	33	459	5	83
百名山	1	8	2	29	1	21
花	27	452	22	347	-5	-105
野鳥観察	2	37	3	61	1	24
写真	0	0	3	48	3	48
山と歌	3	67	4	89	1	22
スケッチ	1	12	1	9	0	-3
合計	175	2206	184	2614	9	408

17年度は16年度に比べ、世話役会山行の回数・参加者とも増加しており、世話役リーダーの努力と会員の参加意欲がうかがえます。

(8) 定例山行など会企画山行の充実 ( )内は当初予定数

定例内訳	2015年		2016年		2017年		前年比	
	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者
里山低山	19	335	19	250	19(24)	299	0	+49
鎌倉	12	240	12	202	10(12)	125	-2	-77
公園	12	140	10	161	10(12)	108	0	-53
夏山定例	10	85	6	59	6(12)	53	0	-6
ゆっくり	8	159	8	151	9(10)	138	+1	-13
合計	61	959	55	823	54(70)	723	-1	-100

リーダー企画山行を補完する会企画山行として定例山行があります。前期に引き続き生涯登山と中年層向け山行の充実を両輪として推進しました。延べ177名のリーダーの協力を得て、高齢者会員向けの「里山低山」「鎌倉」「公園」及び中年層を対象とした「夏山定例」「ゆっくり」山行の充実に努めました。担当リーダーを公募して、いち早く情報誌やホームページに年間スケジュールを掲載して、会員の利便を図りました。

① 生涯登山の充実

「鎌倉」「公園シリーズ」を前期に引き続き、毎月1回計画したほか、高齢者であっても山に登りたいとの要求に応じて「里山低山」を毎月2回山行を計画しました。また、憧れの高山にゆっくり登りたいというニーズは依然として高く「ゆっくり」山行を10回に増やしました。しかしながら天候不順の影響を受け、夏山定例も含めて雨天中止が11件ありました。また、当初予定していたにもかかわらず計画が提出されなかったものが5件ありました。このため、今後は雨天の際には出来るだけ振替日程を検討していただくと共に、事前に計画の提出を確認するようにして行きたいと思えます。

② 中年層向け山行の充実

中年層から要望が多い「夏山定例」は12件計画されましたが前述の天候不順等の影響で半分の6件が中止され、実施件数は6回でした。

(9) 35周年記念の集中登山と海外山行

10月28日から29日にかけて、「35周年記念集中登山 in 富士五湖」と題して、富士山麓周辺に14コースを設定し、富士緑の休暇村を報告集会の会場として開催され、204名(現地支援スタッフ11名を含む)の会員が参加しました。初日は小雨模様にも関わらず、各コースリーダーの的確な判断で、全コース無事に登山することが出来ました。宿舎では、各コースリーダーからの報告と共に、高橋顧問から40周年記念を見据えた今後の企画への指針が示されました。2日目は、台風の影響で登山は出来ませんでした。全員無事に海老名駅に到着することが出来ました。

また、35周年記念海外山行として、8月20日から9月1日の日程で「キリマンジャロ」山行が計画されました。7名が参加し、6名が登頂を果たしました。さらに、11月1日から12日までの日程で「インカトレイルとマチュピチュ」の山行が行われ、11名が参

加しました。

(10) 創立記念日山行

みろく山の会は1983年4月10日に設立されました。これまで有志により創立記念日山行が実施されており、今期は保土ヶ谷児童公園・植物園の会場に25名が集まりました。また前々期から始まった「創立記念日三浦半島縦貫山行」10コースが計画され、今までで最高の205名のエントリーがありましたが、雨天のため中止となりました。

(11) 若手会山行

後継者の育成と中年層の会への定着促進を目的として、中年層の仲間作り山行を呼びかけました。60歳未満の会員からなる若手会では、メーリングリストの充実や親睦会などとともに親睦山行が継続して実施され、今後会活動の担い手としての活躍が期待されます。

(12) 同年会、地域会の活動

- ① 同年会には、稲の会（昭和10～11年）、サンキュウ会（昭和12～13年）、いちご会（昭和15年）、いちろく会（昭和16年）、いいな会（昭和17年）、壮春18の会（昭和18年）、24の瞳会（昭和24年）などがあります。今期の山行計画数は2件でした。
- ② 地域会には、横浜北部会、保土ヶ谷・西谷会、町田・相模原地区会、三浦の集い、大船会、湘南会、柏尾川会、新潟県人会、仙台萩の会などがあります。今期の計画件数は2件でした。

(13) 交流山行

健全な登山・ハイキングを目的とする山の会は数多くあります。その中でいくつかの会と本会はトップ同士の交流、情報誌・会誌の交換などが古くから続いています。そうした中、2017年5月24日から25日にかけて、西宮明昭山の会と交流山行を行いました。明昭山の会から10名、本会からは22名（内11名は日帰り）が参加し、「天城縦走」を果しました。宿舎では打ち解けた交歓会が行われました。

- (14) 個人山行の届出数は598件（前年比8件減少）でした。届出のないものもかなりあると思われ、安全面及び緊急時の対応などの面からも届出を呼びかけました。また、会員の登山機会を増やすためできる範囲で会山行とするよう呼びかけました。

## 2 山行の安全に関する活動

(1) 学習山行、講習会の活動

① 鷹取山三点支持学習山行

7回実施し77人が参加しました。雨天中止が3回ありました。

② 負傷者救急措置講習会

会員24人と部員9人の計33人にて実施しました。この講習会に向けて最新知識と最新の技術の習得を目的として安全部員が県岳連の研修に参加しました。

(2) 情報誌での啓発活動

「安全部のページ」を担当し、以下のテーマで安全登山に関する情報を発信しました。

「5月号 救急キットの中身は?」、「7月号 夏山シーズンを迎えて」、「9月号 遭難事故の概



要」、「11月号 低体温症と凍傷」、「1月号 負傷者救急措置講習会について」、「3月号 スマホGPSの活用と注意」。

(3) 室内例会・リーダー会議での対応

室内例会では、「安全一口メモ」を担当し、以下のテーマで行いました。

「6月 遭難を防ぐ知恵」、「7月 ヘルメットの着用」、「9月 体力判断基準」 「11月 救急信号について」、「12月 スマホGPSの活用と注意」 「3月 脱水によるトラブル」。

またリーダー会議では事故報告を行いました。

(4) 事故やヒヤリハットの要因を掘り下げ、事故防止に取り組みました。

谷川岳一ノ倉沢での滑落事故について、事故原因の検証を行いました。

(5) Dランク山行自己チェック表により、Dランク山行計画のチェックを継続して実施しました。

(6) 遭難対策マニュアルを会の規約に追加しました。

(7) 会内事故の推移

無事故を目指しましたが、残念ながら8件の事故が発生しました。

3 登山技術のレベルアップに関する活動

(1) 月例山行

① ワンポイントレッスンとして「安全十訓」の習得に努めました。

② 月例塔ノ岳山行では、「安全十訓」の習得とともに、簡易ハーネスの作り方の習得に努めました。

③ 「参加者の増加による他の登山者とのトラブル回避」と「担当リーダー数不足」に対し以下の対策をとり、今後も継続します。

a. 月例塔ノ岳山行の4月、5月は2回実施し参加者の分散化を図り、全ランクで8月は休止としました。

b. 全リーダーに「月例の年2回担当」の協力をお願いし、多くの有志の方の参加をいただきました。

c. 月例担当を免除されたリーダーにも協力をお願いし、多くの方の参加をいただきました。

④ 2016年4月より月例山行を変更し、月例BCD山行は塔ノ岳で、月例S山行・月例A山行はそれぞれ標準的なコースで実施しました。引き続き会員・リーダーへの周知と参加者の増加に努めました。

(2) 学習体系に基づく学習山行に関する活動

次の学習山行が承認・実施されました。

① 沢教室

沢登りに必要な基礎的知識と遡行技術を、座学と実技山行を通して学ぶことを目的に、3~4月に座学を含め計4回実施しました。

② 幕岩教室

岩・沢・岩稜山行のための基礎的な知識と技術を習得することを目的に、9月~11月に説明会を含め計6回実施しました。

③ リードクライミング講習会

岩場をリードで登るための基礎技術習得を目的に、11月～12月に説明会を含め4回実施しました。

④ マルチピッチロープワーク講習会(MRT)

マルチピッチクライミングの要素の一つであるロープワーク・支点確保の知識(基礎)をダブルロープを使用して実践的に習得することを目的に、2月～3月に説明会を含め計6回実施しました。

⑤ 雪山入門教室

雪山テント山行のための基礎的な知識・技術の習得を目的に、12月～3月に、座学を含め4回実施しました。

(3) リーダー教育に関する活動

① 2017年度新リーダー実技研修は4月16日にこども自然公園で実施しました。スリングの扱い方、ロープの結び方、簡単なロープワークなどの実技が行われ、新リーダー18人が参加しました。欠席の1人には補講を行いました。

② 2017年度リーダー研修会を12月3日に実施し、108人が参加しました。

今期研修会は、「緊急対応ドリル」とのテーマで説明、模範演技、グループでの演習と討議を行いました。グループ討議結果を山行統括部会でまとめ、検討を行いました。この成果を第20期の活動に展開します。

③ 2018年度新リーダー研修会を3月25日に実施し、新リーダー13人が受講しました。

各部長からリーダーの心構え、各部門の役割と活動、山行安全などについて講義が行われました。欠席の1人には補講を行いました。

④ 2年目リーダーに対し、ステップアップ研修を11月18日に実施し、10名が受講しました。

山行に関する知識・技術・リーダーシップのあり方について講義と議論を行い、次のステップへのきっかけになりました。

(4) 山行ランク表の見直し

① 山行ランク表は2003年に改訂、2010年に見直し、更に2015年度・2016年度に見直しを行いました。2017年度は大きな見直しは行いませんでした。

② 山行報告書に山行ランクの妥当性を記載する欄を設け、変更を要すと報告を受けたコースを検討し、一部コースのランクを変更しました。

(5) 新リーダーの活動

15年度・16年度新リーダーの参画回数を見ると2年目・3年目とも意欲の高さが続いていることが分かります。全山行計画の中でも3年目までのリーダーの参画山行が高い割合を示し、新リーダー育成制度の成果が表れていると考えられます。

新リーダー 就任年度	人数	CL、SL山行 延べ回数(一人当たり平均回数)		
		1年目	2年目	3年目
15年度	7人	57(8.1)	112(16.0)	70(10.0)

16年度	13人	145(11.1)	190(14.6)	—
17年度	19人	148(7.8)	—	—